

# グリーンベルト自然観察会 記録

2002.10~2011.3

第1回 2002.10.12(土) 晴れ 微風 最高 27.5°C 最低 16.1°C 参加者:8人

・テーマ:秋の境川周辺の自然 場所:境川合流点~消防署南田圃

**草本** (花) ホシアサガオ, カナムグラ, セイタカアワダチソウ, テルミノイヌホオズキ, ヒメジョン, カタバミ, ツユクサ, コニシキソウ, ジュズダマ, ガガイモ, ススキ, ヤナギハナガサ, ヒメマツバボタン, アキノノゲシ, アメリカミズキンバイ, ヨウシュヤマゴボウ, ノコンギク, セイヨウタンポポ, ノゲシ, (実その他) アメリカスズメノヒエ, ヘクソカズラ, タチスズメノヒエ, シマスズメノヒエ, オオニシキソウ, イノコズチ, オナモミ, メヒシバ, オヒシバ, アキノエノコログサ, カゼクサ, キンエノコロ, セイバンモロコシ, ミツバアケビ, オギ, カラムシ, スイバ, コマツヨイグサ



**木本** ジャヤナギ, クワ, エノキ, クスノキ

**昆虫・クモ** トノサマバッタ, ショウリヨウバッタ, キチョウ, モンキチョウ, アカタテハ, ヤマトシジミ, ミツバチ, ジュウモンジカメムシ, アジアイトンボ, アキアカネ, アメンボ・イタチグモ, ネコハグモ



**鳥・その他** カルガモ, キセキレイ, カワラヒワ, モズ, セグロセキレイ, コシアカツバメ, ヒヨドリ, キジバト, スズメ, ドバト・タニシ, ドジョウ, ブルーギル, カワムツ?イシガメ

(参加者の感想)

○秋陽の下で、普段は何気なく通りすぎる見慣れた川辺に咲く草花、昆虫、鳥、魚たちの姿様に足をとめ、名を確かめる。その瞬間から小さな息づかいとしか思えなかった生命が大きく膨らみ、強さを伴って私の中に入りこんでくるような気がしました。 (Uさん)

○植物観察会にはじめて参加する自分にとって、植物の「生きる力」を五感で味わうことは、日常生活では味わえない新鮮な体験でした。植物が、独自の方法で生きる工夫をしているのを見て、我々が生きている空間が、けして人間だけのものではなく、あらゆる生命のものだということも強く感じました。やはり、自然環境は、「人づくり」の場として最高の舞台ですね。(Tさん)

○周り一体が同じ環境のように見えていたところでもほんの少しの高低差による水環境の違いから自生する植物群が違ってくるということや大木の傍は乾ききらないことから他と違う植生になることなど、とてもよく理解できたことがとても嬉しかったです。このような会を継続して実施していくらと思いましたし、さらに輪を広げて一般町民を対象とした「グリーンベルト自然教室」を定期的に開けられるといいなと思いました。境川の河川敷で「ジュズダマ」や「クスノキ」が自生しているのにも驚きました。ザリガニのたくさんいた田んぼのあぜの水路にも心落ち着く感じを味わうことができました。川にはカメが全く見られなかつたのに側溝脇で「クサガメ」を見つけられたことにはとても感激しました。水が少なくとも強く自生していく「アサガオ」と同種のものは、町内の公園に使えれば、管理する上でもいいのかなと思いました。(Hさん)

第2回 2003. 3. 23 (日) 晴れ 最高 16.5°C 最低 1.5°C 参加者: 31人

・テーマ: 春の七草と野鳥の観察 場所: 境川周辺

「せりなずな ごぎょうはこべら ほとけのざ すずなすずしろ これぞ七草」

・ごぎょうは「ははこぐさ」、ほとけのざは「こおにたびらこ」、はこべらは「はこべ」のことです。

**鳥:** ヒバリ, スズメ, ハクセキレイ, モズ, カラス, ダイサギ, イワツバメ・ツバメの古巣, ツグミ, ドバト



ナスナ

**昆虫:** ベニシジミ, モンシロチョウ, キチョウ, ナナホシテントウ, ツチイナゴ, カの仲間



ごぎょう

**植物:** クワ, アサガオの仲間, コメツブツメクサ, カラスノエンドウ, スイバ, アメリカフウロ(花) セイヨウカラシナ, トウカイタンポポ, ハコベ, ヒメオドリコソウ, ホトケノザ, ナズナ, スミレ, オランダミミナグサ, タネツケバナ, コオニタビラコ, ハハコグサ, ハルノノゲシ, レング, フキ(ふきのとう), スズメノヤリ, スズメノカタビラ, (薔薇) ジャヤヤナギ



ハコベ

**その他:** ウズキコモリグモ, ヒキガエルとスズメの死体

前日の午後から降り出した雨、当日はからりと晴れて観察会日和でした。春の七草は4種類。これではとても正月の7日には見つけられそうにありません。旧暦の1月7日、今年は2月7日にあたるそうですが、この頃になれば葉の形でだいたい分かれるようになります。もう3月も終わり近くですから花もよく咲いていました。セリが見られなかつたのが残念でしたが、ほとけのざのコオニタビラコだけでなくフキノトウも見られました。都会近くで、これらの植物が見られるのはうれしいものです。春を感じて、ヒバリが空のエレベーターを上ったり降りたりし、昆虫も顔を出してきました。これから、春本番、野外で自然のおもしろさを楽しむにはもってこいの季節です。

第3回 2003. 4. 27 (日) 晴れ 最高 23.0°C 最低 11.9°C 参加者: 9人

・テーマ: 春の生きもの 場所: 境川周辺

雨の続いた後の、心地よい春風の吹く日でした。第2回の参加者の方へは、記録と一緒に観察会の予定を役場から送っていただき、また、児童館にもチラシを掲示してもらいましたが、一般町民の方の参加はありませんでした。東郷町での自然観察会、これから定着させていきたいと思います。

さて、観察会ですが、前川沿いの大きなヤナギの木の根方に生えているエノキの葉でゴマ



ダラチョウの幼虫(左の写真)が見つかりました。ゴマダラチョウはオオムラサキと同じように幼虫で越冬する雑木林の代表的なチョウです。一方、エノキは、実を鳥が好み、あちこちに見られます。平地の小さな林にも棲みつくようです。このチョウが増える事が出来る環境をグリーンベルトに作っていきたいものです。

低い草の中にノビルやノヂシャが見かりつけました。ノビルは球根を、ノヂシャはサラダに利用できます。春の植物はどれも柔らかく食べるのには最適です。もっとも犬の糞害がなければですが。花いっぱいの草原にはチョウが何種類も見られ、おま

けに雄のキジの顔を真正面から見るというチャンスがありました。

**植物**：キュウリグサ，マツバウンラン，アメリカフウロ，カラスノエンドウ，スズメノエンドウ，カスマグサ，シロツメクサ，コメツブツメクサ，カタバミ，オオイヌノフグリ，タチイヌノフグリ，スイバ（雄株，雌株）ハルジオン，ノヂシャ，レンゲソウ，セイヨウカエラシナ，ニホンタンポポ，ヒラドツツジ，カラスムギ，ヘラオオバコ，トキワハゼ，イヌムギ，ノビル，フキ，ゼニバアオイ？

**昆虫**：アオスジアゲハ，キチョウ，モンキチョウ，ツマキチョウ，モンシロチョウ，ツバメシジミ，ヤマトシジミ，ベニシジミ，ゴマダラチョウの幼虫，セイヨウミツバチ，ハムシ2種，けばえの仲間，ヒラタアブの仲間，虫こぶ

**鳥**：キジ，ケリ，セグロセキレイ（河原で何匹も羽虫を捕まえてはどんどんくわえていった），イワツバメ，ツバメ，オオヨシキリ，セッカ，モズ，カルガモ，ムクドリ，ハシボソガラス，アマサギ

**その他**：ヌマガエル（草原でお食事？），アマガエル（声），アカミミガメ

.....

#### 第4回 2003.5.23(金) 晴れ 最高 25.9°C 最低 18.8°C 参加者：20人

・テーマ：**ヒメボタルの観察** 場所：前川



5月にしては、雨やくもりの多い日が続いています。15日に雨が降ったので17日に下見をしました。左の写真はその時撮ったものです。ホタルの羽化は雨が降って、地面が柔らかくなつて、蒸すような日が適しているようです。

今日は、日中は夏になりましたが、夜になると、境川周辺は風もあってコートを一枚はおってちょうどよいくらいでした。

昨年は尾三消防の照明が周囲を明るく照らしていました。ホタルは多くは見られませんでした。（毎日見ているわけではないので推測に過ぎませんが）昨年、消防署の方へヒメボタルの生息状況について説明をし、光が前川の方へできるだけもれないようにお願いしたところ、照明にシェードを取り付け光が周辺にもれないよう配慮してもらいました。その効果かどうかは分かりませんが、この日の30分くらいの観察時間で個体数を数えたら、126ほど数えることができました。ヒメボタルは、黄色っぽい強い光を発しますので、参加者から思わず歓声が上がりました。ゲンジボタルよりひょっとしたら見応えがあったかもしれません。よく見られた場所は、昨年とは、下流で、堤防の東側に多く出ていました。ヒメボタルは、オカチヨウジガイなどの陸生の貝をたべるので、まず貝が生息しやすい環境を整えることが必要だと感じました。

.....

#### 第5回 2003.8.24(日) 晴れ 最高 34.7°C 最低 24.6°C 参加者：13人

・テーマ：**秋の鳴く虫音楽会** 午後7時30分～9時 日の入り：午後6時45分

始めに、虫の色や形、食性、触角の長さを例に、秋の夜長をなき通す虫たちの生活の様子を話していくうちに段々暗くなり、ツクツクボウシがなきやみ、草陰からスズムシの鳴き声が聞こえてきました。

近頃の庭造りと違つて、野の花を愛でていた頃は、秋の七草の「ハギ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、



クズ、フジバカマ、オミナエシ」などを庭に植え、虫の音を楽しんでいたことでしょう。現代の境川周辺の秋の花は、アレチマツヨイグサ、ツリガネニンジン、クズ、アレチハナガサ、ワレモコウ（少ない）くらいでしょうか。草の種類や高さ、土の湿り具合などで、すむ虫の種類が変わってくるので、草刈りにも工夫が必要だと思います。

**鳴く虫**ツクツクボウシ、スズムシ（リーンリーン）、カンタン（ルルルル）、ハラオカメコオロギ（リッリッリッリッ）、エンマコオロギ（コロコロリー）、ミツカドコオロギ（リッ、リッ、リッ、リッ）、ハタケノウマオイ（シッチョ）、キリ（ジャー）、アオマツムシ（リリリリー）、カネタタキ（チンチンチン）、クサキリ（ジー）、ツユムシ（ジ・ジイジイジ）、セスジツユムシ（ツ・ツ・ツ・ツ・ジーッ・ジーッチ・ジーッチ）

**植物**アメリカスズメノヒエ、（タチ）スズメノヒエ、クズ、アレチマツヨイグサ

**鳥・その他**ゴイサギ、カルガモ、ケリ、ヌマガエル、ウシガエル、コゲチャオニグモ、ジョロウグモ・クチキムシの仲間、ナメクジ



http://www.kyoto-u.ac.jp/~kuroda/kyoto/kyoto.htm

## 第6回 2003. 9. 28 (日) 晴れ 最高 27.6°C 最低 18.0°C 参加者：6人

・テーマ：バッタを探そう 場所：境川周辺



朝晩は涼しくなりましたが、日中はまだ夏の日差しが照りつけ暑い日にになりました。

夕方の気温が低くなるに連れ、かしましく鳴いていたアオマツムシは午後8時ころにはほとんど聞かなくなり、マツムシやツヅレサセコオロギ、エンマコオロギの天下になります。アオマツムシが南方からの外来生物だということがよく分かります。

1枚目の写真はゴマダラチョウの幼虫です。もう少しエノキの葉を食べて大きくなり、幼虫のままこの辺りで越冬し、来年の春また目を楽しませてくれる事でしょう。



2枚目はセイヨウタンポポの蜜を吸うモンシロチョウです。両方とも外来の生物です。セイヨウタンポポは真夏はお休み（休眠といいます）をしていますが涼しくなると花を咲かせ実をつけます。春先に見つけたニホンタンポポは春にしか花を咲かせませんから、セイヨウタンポポがどんどん増えていくのは当たり前ですね。ちなみに、セイヨウタンポポは、昔ながらのある程度まとまった自然環境が残っているところにはあまり入り込むことができないようです。



3枚目はツリガネニンジンです。キキョウの仲間の多年草で、花が釣鐘形で下垂し、太い根や根茎が、チョウゼンニンジンに似ていることによるようです。土手や堤防によく見られた植物です。若苗はトトキといわれ古くから食用にされたようです。生薬としても使われます。

4枚目はアカタテハの幼虫です。カラムシ織りの繊維をとるカラムシが食草です。

前川の堤防にはまとまって生えています。冬にも見られる蝶です。

今日の・テーマは「バッタ」でした。でもバッタの仲間はツチイナゴとクルマバッ



タモドキ、コバネイナゴしか見つからず、トノサマバッタは見つけることができませんでした。彼らはある程度の広さを持った乾燥したある程度背の高い草原が好きなようです。残念ながら、前川にはそのような環境がなかったということです。

虫や草、木の生育状況を見ると環境がより見えてきます。

http://www.kanagawa-nature.com/nature/2003/12/28.html

## 第7回 2003. 12. 28 (日) 晴れ 最高 10.2°C 最低 -0.5°C 参加者: 7人



・テーマ: 冬鳥を見よう 場所: 境川周辺

最低気温こそマイナスになりましたが、風も弱く穏やかな日で、バードウォッチング日和でした。

(株)三五とエイト工業にはさまれた境川の浅瀬の辺りにサギやカモ、チドリの仲間などが見られました。アオサギは日本で見られるサギの中で最大の鳥です。大きな灰色の姿は魚を狙う姿も飛ぶ姿も見応えがあります。やはりツウイーと声を立てて飛んでいく青い宝石、カワセミを見ると感激です。カワセミは境川で一年中見られる鳥の仲間です。



カワセミ

### 出会えた鳥

アオサギ、ダイサギ、コサギ、カワセミ、カルガモ、コガモ、バン、イカルチドリ、ハマシギ、カワウ、モズ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、カワラヒワ、ツグミ、ヒヨドリ、ホオジロ、アオジ、キジバト、スズメ、ドバト、ケリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（計25種）

花 シキザクラ、オオイヌノフグリ、セイタカアワダチソウ、ニホンタンポポ、セイヨウタンポポ

http://www.kanagawa-nature.com/nature/2004/03/28.html

## 第8回 2004. 3. 28 (日) 晴れ 最高 20.2°C 最低 4.2°C 参加者: 9人

・テーマ: 春の七草を探そう 場所: 境川周辺

「せり なづな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ」

ナズナ(ペんぺん草)、ごぎょう(母子草)、はこべら(ハコベ)、ほとけのざ(コオニタビラコ)の4種を探しながら、それ以外にも食用や薬用になる草の話が話題になりました。河川敷や田んぼにはノビル、スイバ、タネツケバナ、ヨモギ、カラスノエンドウ、セイヨウカラシナ、フキがありました。でも、犬が歩き回るので、食べるのには不適です。



ヤナギの新芽



昨年3月に植樹した5本の木のうち、ケヤキとヤシャブシは枯れてしましました。しかし、ハナノキは見事に花を咲かせましたし、クスノキは緑の葉がきらきらと輝いて安心しました。ハンノキはニセアカシアでした。

**第9回 2004. 4. 25 (日) 晴れ 最高 19.2°C 最低 5.7°C 参加者：5人**

・テーマ：**花と虫探し** 場所：境川周辺



22日は30度を超える真夏日でしたが、今日は暑からず寒からずの気持ちのよい日になりました。前川には田の代掻きの水が流れ込んで濁っていました。

昨年、柳の木の下で葉を広げていたエノキにゴマダラチョウの幼虫がいましたが、今年は見つけることができませんでした。川下を見ると、何本もエノキが生えています。あっちへ移ったのでしょうか？ゴマダラチョウが増えしていくといいなと思います。

今年の春先にネコヤナギを10本ほど挿し木しましたが、1本、枯れずに残っていただけでした。3月の観察会の時に咲いていたハナノキは実をつけていました。

花はセイヨウタンポポ、セイヨウカラシナ、オオジシバリ、ハルノノゲシ、ケキツネノボタン、コオニタビラコ、ハハコグサの黄色が圧倒的でした。黄色の絨毯という言葉が当てはまるくらいです。

その中に、紫色系のカキドオシ、ホトケノザ、スミレ、トキワハゼ、レンゲ、マツバウンランが目につきました。白色はなんといってもノヂシャでした。食用になるかわいい外来種です。

昆虫はモンシロチョウ、キチョウ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、それにカゲロウの仲間が結構な数飛んでいました。ツバメが川の近くに巣を作る意味がわかります。

**第10回 2004. 5. 21 (金) 晴れ 最高27.5°C 最低16.6°C 参加者：30人**

・テーマ：**ヒメボタルを見よう** 場所：前川周辺



今年は連休の辺りから梅雨のような空模様です。夜、遅いというのに多くの参加がありました。

台風2号が太平洋岸沿いに北上してきていたので、観察会ができるか心配していましたが、14日の朝には晴れ、まあまあの気象条件で観察会ができました。

先週の下見では、ちらほらとしか姿を見せなかつたので、今日はどうかなと思っていました。しかし、台風一過、気温も上がって來たので、去年よりも条件はよいように思えました。



結果は、午後9時過ぎから10時過ぎまで、目視で245匹数えました。これは、昨年の2倍ほどになります。ヒメボタルは雌が飛べないだけでなく、雄の飛ぶ力も弱いのでここでのヒメボタルは今の環境がなくなれば絶えてしまいます。この環境を保ち、ある程度の改善を試みる必要があるでしょう。

(黄色く光る発光器)

## 第11回 2004. 8. 22 (金) 晴れ 最高 32.0°C 最低 23.9°C 参加者：13人

・テーマ：秋の鳴く虫音楽会にでかけよう 場所：境川周辺 午後7時～8時

南方海上に台風16、17号があり、本州に前線が横たわっています。一週間ほど前から気温も平年並みになり、この日も涼しい風があり、蚊に悩まされることもなく虫の声を聞くことができました。

♪あれマツムシが鳴いている♪、文部省唱歌の「虫の声」、懐かしい歌ですね。でも、登場する虫は5種類だけでした。



唱歌で歌われた虫がいるかしらべました。下見では、クツワムシ以外は聞くことができました。当日はウマオイ雌にはお目にかかりましたが、雄はいなかつたらしくスイッチョンは聞くことができませんでした。よく聞こえたのは、エンマコオロギ、マツムシ、スズムシ、カンタン、オカメコオロギ、ツヅレサセコオロギ、カネタタキ、アシグロツユムシ、ササキリのなかま（3種ほど）。また、虫ではありませんがウシガエルの声がしました。

虫網で、草むらをなでるようにするとたくさんキリギリスのなかまが捕まりました。草丈や植物の種類で虫の種類が違うようです。

（略）

## 第12回 2004. 9. 26 (金) くもり 最高 29.3°C 低 22.0°C 参加者：26人

・テーマ：バッタの運動会 ーどのバッタが一番飛ぶかなー 場所：名大農場

子供たちの歓声が運動会で聞かれる季節になりました。今回は、名大農場に場所を移し、バッタの運動会をしました。どのバッタが一番飛ぶのでしょうか。農場のシバヤギの放牧場を2面お借りして、バッタとりです。雲が薄くなり、草が乾くにつれて、あちこちで歓声が上がっていました。30分ほどで切り上げ、運動会にエントリーしてもらいました。エントリーしたバッタは、トノサマバッタ7匹、ショウリヨウバッタ4匹、クルマバッタ2匹、ツチイナゴ4匹、ヒナバッタ2匹、ササキリ1匹で、水そうのふたからジャンプです。すぐ飛び立つもの、なかなか飛び立たないもの、いろいろでした。1位は、見ているみんなから歓声が上がった、38m以上も飛んだトノサマバッタでした。フェンスに阻まれたので、運動場であればもっと飛んだことでしょうね。2位も3位もトノサマバッタでした。来年は、みんなでトノサマバッタを捕まえましょう。



<トノサマバッタ褐色型；農場には緑色型が多い>

（略）

## 第13回 2004. 12. 26 (日) くもり 最高 7.6°C 最低 4.7°C 参加者：11人

・テーマ：冬鳥を見よう ー鳥のいる環境を考えるー 場所：境川周辺

雲が低く立ちこめ、小雨まじりの木枯らしが吹く寒い一日となりました。やっと冬か、と思うというのは悲しい現実（温暖化が進んでいることを思わせる）だなと思います。

昨年と比べてカルガモが増えたと感じます。40羽以上いました。春から夏にかけ子ガモを引

き連れて泳ぐ姿がよく見られたましたから。カルガモは陸に上がって青々とした草を食べているのが観察できました。

カルガモやコガモは淡水ガモといって、植物を主食にします。ですから潜水はしません。潜水する海ガモ（魚が主食）は池などにはよく見られますが、境川のここではウ以外は見られません。

鳥には、彼らが安全と思って休める場所と餌が必要です。カルガモにとっては、ここは、イタチは出ても、そのような条件を備えているといえるのでしょうか。



今回観察した東郷町側の河川敷や堤防上の道の一部は草や木が残してあるので、ホオジロやアオジクイナなどがすんでいます。反面、林の縁や林の中を好む鳥はあまり見ることはできません。ここが川や池と草地、林がつながるような場所になると、観察できる鳥の数が増えるものと思われます。終わる頃にイタチが水に入って狩りをするのも見られました。

**観察できた鳥** カルガモ、コガモ、カワセミ、ジョウビタキ、バン、モズ、クイナ、アオジ、ホオジロ、カワラヒワ、イソシギ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、スズメ、コサギ、イカルチドリ、ドバト

#### 第14回 2005.3.27(日) 晴れ 最高 18.1°C 最低 3.5°C 参加者：16人

・テーマ：**春の七草、いくつ見つかるかな** 場所：境川周辺

昨日 26 日小雨の降る中、グリーンベルトを考える会でゴミ拾いをしました。おかげで、ゴミがいつもより少なく、気持ちよく春を堪能することができました。今日は風もなく、ぽかぽかと暖かい小春日和でした。川は海につながり、海は多くの命を育んでいるということを想像すれば、水辺をきれいに保つ努力はすべきです。そして、境川周辺に多くの生き物が棲める環境を取り戻していきたいものだと思います。



今日は、「せりなずな ごぎょうはこべら ほとけのざ すずなすずしろ これぞななくさ」のうち、5種類を河川敷から近くの田んぼへと探して歩きました。春の恵みを食べることは、古人にとって新鮮な楽しみだったのでしょう。参加された方にも、路傍の草が食べておいしい、というこを味わっていただきたかったのですが、なにせ、犬の散歩コースですから食べるのは断念しました。

<観察できた生き物>

**植物** 七草：セリ、ナズナ、ゴギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ（コオニタビラコ）の5種、ニホンタンポポ、セイヨウタンポポ、セイヨウカラシナ、タネツケバナ、ナズナ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ノゲシ、ノビル、ヤエムグラ、スイバ、スズメノヤリ、イタドリ、スズメノテッポウ、スマレ、ツクシ、ヤナギの花、モモ、ウメ、シキザクラ

**動物** カルガモ、コガモ、コサギ、カワセミ、イソシギ、ハクセキレイ、キセキレイ、セグロセキレイ、スズメ、アオジ、ハシボソガラス、ツグミ、ケリ、羽虫、ヨモギハムシ、ヒシバッタ、ナナホシテントウ、キタテハ、モンシロチョウ、セイヨウミツバチ、アブ、キチョウ、ヤマトシ

ジミ，ヒキガエル卵



第15回 2005. 4. 24 (日) 晴れ 最高 20.3°C 最低 8.4°C 参加者：9人

・テーマ：**春の花と虫** 場所：境川周辺

白色：ノヂシャ，オランダミミナグサ，ハコベ，ハナイバナ，ヤエムグラ，タネツケバナ，ナズナ

紫色（水色）：スズメノエンドウ，カラスノエンドウ，カスマグサ，スミレ，アメリカフウロ，トキワハゼ，タチイヌノフグリ，オオイヌノフグリ，マツバウンラン，カキドオシ，キュウリグサ

赤色（ピンク）：スイバ，ハルジオン，レンゲ

黄色：ニホンタンポポ，セイヨウタンポポ，セイヨウカラシナ，タチカタバミ，ケキツネノボタン，オオジシバリ，ホトケノザ，ヒメオドリコソウ，ハルノノゲシ，オニノゲシ，ニガナ，コオニタビラコ，オニタビラコ，スカシタゴボウ

緑色：ギシギシ，ジャヤナギ

茶色：スズメノヤリ

**昆虫**：ヒシバッタ，ユスリカ sp，コガタルリハムシ，モンシロチョウ，ツマキチョウ，ベニシジミ，ヤマトシジミ，クロアゲハ，ナミアゲハ，ナナホシテントウ，ヒメウラナミジャノメ，キチョウ，カスマグサに産んでいた卵（黒真珠の光沢あり）

**鳥**：カルガモ，カワウ，ツグミ，カワセミ，ケリ，タシギ，イソシギ，ヒバリ，キジ，スズメ，ドバト，オオヨシキリ，セッカ，ホオジロ，

その他：ネズミの死体，カメ sp，



色とりどりの花が、歩みを進めるごとに見つかります。春爛漫という言葉を思い浮かべました。春は黄色と紫の花が多いようです。夏鳥のオオヨシキリやケリ，ヒバリの声が巣づくりの季節がきたよ，と知らせているようでした。季節の移り変わりが体感できた半日でした。ただ，境川と前川の合流点南側に造成された水と緑の回廊の植樹場所に，昔から来ていたオオヨシキリが姿を見せなかつたのはちょっと心配になります。

（以下略）

第16回 2005. 5. 20 (金) 晴れ 最高 24.5°C 最低 12.2°C 参加者：80人強

・テーマ：ヒメボタルを見よう

午後 7 時から 場所：前川周辺



今年は昨年と比べ、雨が少なく、気温も低めでした。しかし、18日には雨が降り、19日には強い風が吹き、正に、この時期の天候を表す「降る、吹く、ドン」のドンにあたる日で、風もほとんどない穏やかな日でした。飛翔力の弱いヒメボタルにとっては最高の出現日に観察会が当たったわけです。会の人たちで、堤防の草刈りをした熱意が伝わったかな？と思わせる日でした。

今年は、午後 7 時集合ということで、昨年の参加者の 2 倍をはるかに上回る参加者があり、うれしい？悲鳴をあげたことでした。他のホタルと比べてヒメボタルの特徴の違いや環境との関わりについて一通りの話をし、ヒメボタルの住み続けられる環境を守ることが、人にとっても暮らしやすい環境を維持していくことにつながるということなどを話してから出発しました。

その後、田んぼ沿いに夜の生き物を観察しながらゆっくり目的地へ向かいました。午後 8 時過ぎ頃、堤防の内側でピカッと光るヒメボタルを発見。その後は空中を遊泳するように飛ぶヒメボタルの姿に見れたり、草の下に止まっていたものをルーペで観察したりしました。遠くへ行かなくても、近くで、ホタルが見られることに感激です、というような感想を持たれた方が多かったようです。

第 17 回 2005. 8. 26 (金) 晴れ 最高 35.0°C 最低 27.6°C 参加者：7人

・テーマ：秋の鳴く虫音楽会—鳴き声をききわけよう— 午後 7 時～8 時 場所：境川周辺

台風 11 号が去って、17 日以降でまた 35 度という暑い日になりました。それでも、堤防にのぼると、生暖かい空気の中ですずしげな風が優勢になってくるのを感じることができました。西



の空には、金星と木星が並んでいます。時間がたつにつれ、適当な風があり蚊にもさされず、虫の声を楽しみました。

鳴く虫の写真を見比べてみて、エンマコオロギなど地面にすむのは黒っぽく、葉の上や茎にいるものはうす茶色、木の葉上にいるのはやはり緑色です。今回も、声のするところを丹念に探しましたが、羽を動かして鳴いて

いる姿にはお目にかかりませんでした。残念。

<聞き分けた声>スズムシ、マダラスズ、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、ミツカドコオロギ、ツヅレサセコオロギ、アオマツムシ、カンタン、ハタケノウマオイ、マツムシ、タンボコオロギ、ササキリの仲間、ウシガエル <そのほかの生き物>カマキリ、ササキリの仲間の幼虫、ゲジ、アマガエル、クロコガネ、ヒメコガネ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、トノサマバッタ、ツチイナゴ幼虫、トビイロスズメ幼虫、ナガコガネグモの団居、ウロコアシナガグモと卵嚢、アシナガグモ

鳴く虫の声はどれも特徴があり心を和ませるものでした。